

米子まちなか観光案内所
 (一般社団法人米子観光まちづくり公社)
 〒683-0835 鳥取県米子市灘町1丁目19
 TEL 0859-21-3007 FAX 0859-21-3008
 E-mail info@yonago-tourism.com
 http://yonago-tourism.com/

歴史まち歩きコース
 (所用時間2時間 距離約2km)

①海に浮かぶ天空の城米子城跡コース
 国史跡米子城跡は、かつて「山陰随一の名城」と称され、石垣などが良好に保存されており、近年発見された「登り石垣」や「堅堀」などは城郭ファン必見です。また、大山、日本海等を見渡す360度の眺望がおすすです。

②加茂川・中海遊覧コース
 かつて米子城の外堀であった加茂川や全国で五番目の広さを誇る雄大な中海を周遊する人気のコースで、歴史・文化・自然を体感できる内容です。他のコースとの組み合わせがお勧めです。

※上記コースの組み合わせも可能です。
 例) ①海に浮かぶ天空の城米子城跡コース (1時間)+②加茂川・中海遊覧コース (1時間)
 滞在時間に合わせてコース設定が可能です。

和文化体験メニュー 料金：600円～

歴史まち歩きコースのオプションとしてご用意いたしました。

- ①抹茶・煎茶・ほてぼて茶御手前体験(岩倉町長田茶店)**
 【抹茶体験】抹茶を自分で点ててお菓子と一緒に味わう。
 【煎茶体験】煎茶を自分で点ててお菓子と一緒に味わう。
 【ほてぼて茶体験】出雲名物ほてぼて茶を自分で作り味わう。
 - ②和菓子づくり体験(尾高町御菓子司清月)**
 県内屈指の和菓子職人田部浩之さんのご指導のもと、2種類の和菓子づくりを体験。体験で作った和菓子+和菓子2個のおみやげ付き。
 - ③座禅体験(寺町福蔵院ほか)**
 - ④利き酒体験(深田酒店)** 利き酒体験を通して山陰の地酒の魅力を堪能。
 - ⑤染物体験(紺屋町松田染物店)** 1名様(約60分～約90分)
 約300年の歴史ある老舗染物店で手ぬぐい製作の筒書き工程を体験。完成品を後日発送いたします。
 - ⑥抹茶作法体験(鹿島茶舗)** 裏千家の正式な作法を体験。(約60分)
 - ⑦着物着付体験(米子まちなか観光案内所)** 着物で城下町を散策。(約60分)
- その他、陶芸体験(上田陶房)・落語教室(六代目桂小文吾)などございます。
 ※体験メニューの会場はそれぞれのお店又は米子まちなか観光案内所で行います。
 ※各体験料につきましては、お問い合わせの際にご確認下さい。

※滞在時間に合わせて複数の体験メニューの組み合わせも可能です。
 町歩き・体験と合わせて、昼食のセッティング承ります。

旅行社様向けコース

団体のお客様用に、オリジナルコースを作成することも可能です。
 団体様向け料金設定等もしておりますのでお気軽にご相談ください。

米子は古くから城下町として栄え、明治から大正、昭和期には「山陰の商都」と呼ばれ、大いに繁栄してきました。その街並みは大きな区画整理や戦災、大火もなく、今もなお残り続けています。
 城下町米子は昭和の名残りが色濃く残りノスタルジックに浸れる場所や江戸時代から残っている町家など、時代を超えて風情を感じられる街です。
 四日市町、東倉吉町を中心に飲食店やカフェや雑貨店も多く、「観光+休憩+ショッピング」をセットで楽しめます。
 この下町エリアを城下町米子観光ガイドと絡み、歴史の糸をたどりながら楽しんでみませんか。

料金 2,000円/1名様
 (老舗茶店の抹茶又はコーヒー)
 ※遊覧船コースはプラス1,200円となります。
 ※レンタサイクル希望の場合は別途500円が必要です。

③城下町満喫コース(町屋・小路・地蔵)
 山陰の大阪と称されるほど商業の町としても発展し、今でも当時の街並みが残されている城下。「米子町家」「小路」、日本遺産「加茂川地蔵」など古の風情を感じながらのまち歩きが楽しめます。

④寺町銀座コース
 城下町整備に合わせてつくられた町で、九つの寺院が並び姿は全国的にも珍しいといわれています。米子城下整備の功労者横田内膳の菩提寺妙興寺や山陰のレオナルドダビンチと称される名工富次精斎の手がけた福蔵院などがあります。

必読!!「まち歩き」をより面白くする
米子四百年物語
 ◆ところが、一六〇九年に中村家は断絶。加藤氏六万石池田由之・由成三万石の後、一六三二年に鳥取池田藩の首席家老荒尾氏が一万五千石で米子城を預かり、以降、米子の商人たちは様々な形で城の維持に関わりました。反面、米子は「殿様のいなない城下町」であり、外部との交流も比較的自由になされました。これらの条件から、自由闊達で開放的な、米子人独特の気風が育まれたとも思われます。
 ◆下町界隈は往時の区画もほとんどそのままに、江戸時代の豪商の屋敷なども現存しています。永い時間と時代の変化を受けながら育まれてきた、この町の有り様や人々の気風、気取らない町家の暮らしや文化にちょっと触れていただくと、「まち歩きがいっそう楽しく面白くなるでしょう。」



国指定史跡 米子城跡

米子市の中心部湊山に築かれた米子城は、山頂に五重の天守閣と四重の副天守閣(四重櫓)を持ち、「山陰随一の名城」とも称される壮麗な城であったといわれています。現在、建物は失われていますが、石垣などは当時の姿をよくとどめており、天守跡からは秀峰大山、日本海、中海などが一望できます。平成18年(2006年)に、本丸、二の丸などが国史跡に指定されました。

- 米子城跡の魅力とは?**
- ①種類豊富な石垣**
 戦国時代の特色を残した城で、建物は失われましたが、石垣や礎石はそのまま残っています。このため、様々な時代の石垣を見ることが出来ます。
 - ②変わりゆく景観**
 登城中に景観の移り変わりが実感できます。木立を抜けるとそびえる天守、歩くたびに石垣の見え方が変わっていきます。
 - ③天守跡からの眺め**
 天守からの360度のパノラマは最大の魅力です。「海を臨む天空の城」、城下町、大山、中海の眺望を満喫できます。

加茂川・中海遊覧船

白壁土蔵前から、下町の古い家並みをながめながら旧加茂川を下り、中海に出て湊山公園や米子城跡を望み、深浦橋をくぐって加茂川、彫刻ロードへと至る、往復約50分のコース。船頭さんが見所を紹介。川では「ゆったり」と、海では風を切って爽快に、低い目線から見る風景はまた格別です。

- ★中海サンセットクルージングも承ります。(要ご相談) ※天候の状況によって、欠航する場合があります。 ※冬期運行はご相談下さい。
- 1日2便の定期就航 ●午前10時～ ●午後2時～ (他の時間については予約にて承り)
- 往復の所要時間/約50分 ■定員/一艘…10名
- 乗船料(往復)/大人1200円・小人600円
- 乗船・下船場所/白壁土蔵前(発着点/待合い処・津々堂と駐車場有り)



山陰の旅 観光タクシー

■申込先/米子市国際観光案内所
 鳥取県米子市弥生町(JR米子駅構内)
 TEL.0859-22-6317 FAX.0859-34-2981

米子市内を循環 だんだんバス

米子駅から湊山公園、ホープタウン、天満屋、そして米子駅へと戻る片回り、約9.2kmのコースを約50分で回っています。

ケータイク向けサイト
 「どこでもよなご」だんだんバス時刻表
 http://mobile.city.yonago.lg.jp/m/dandan/

- 1回のご利用料**
- 中学生以上…150円 ●小学生…100円 ●小学生未満…無料
 - 障害者手帳等を提示された方と同乗される介護者…50円
 - ★お得な専用回数券もあります。
 - 運行時間/平日…午前8時ごろから午後6時ごろまで
 土曜、日曜、祝日…午前9時ごろから午後6時ごろまで
 - 運休日/1月1日(元旦)…終日運休
 1月2日と3日…臨時ダイヤで運行します。
 - 料金/半日(4時間まで)…500円
 1日(4時間以上)…700円
 1泊2日…1,000円
 (3日目以降は追加料金700円)

自転車で「楽々」米子体験♪
米子レンタサイクル
 営業時間/8:00～19:00 貸出申込/米子駅前地下駐輪場 要予約●運転免許証、学生証など身分証明書が必要です。
 ご予約・お問い合わせ■米子駅前地下駐輪場 Tel/0859-31-2132

まちの歴史をたどり、まちの心を訪ねて。
版元◆米子市観光協会
 鳥取県米子市東町16-1(市役所第2庁舎3階)
 電話◆0859-372311(〒683-0006)
 ファックス◆0859-372317
 米子市国際観光案内所(JR米子駅構内)
 電話◆0859-226317
 ファックス◆0859-342981

米子港に近い旧加茂川のほとり、この界隈は江戸時代の初め、米子城の築城の際に形作られ、港での海運業が隆盛を極めた、江戸時代末期から明治時代にかけての佇まいを、今も色濃く残す町です。

川にやさしい影を映す白壁の土蔵、川辺の桜並木とお地蔵さん、重要文化財の後藤家住宅や由緒ある豪商の屋敷、九つものお寺が並ぶ寺町通り、タイムトンネルのように連なるいくつもの細い路地など、飾りっ気のなさ、がむしる「まち歩き」にはたまらないスポットです。

また旧加茂川を上流へと遡ると、若者向けのお店が集まるエリアや、そこかしこにお地蔵さんや、陶器店や呉服店など、商店街のなかの古い商家。

米子人の気さくな気質や時代の流れを感じながら、城下町米子の「まち歩き」をのんびり楽しんでみませんか。

まち歩き作法

- 一、まちの人たちとの会話は楽しさの素
- 一、目に見えないまちの物語は面白さの素
- 一、できれば時間を気にせず、ゆっくりと
- 一、まちの人のフライングにはちょっと遠慮を
- 一、お寺への入門、出前は一礼して、お参りの気持ちで

お問い合わせ/ TEL.090-6837-2731(船頭 住田)

米子&周辺のタイムリーな観光情報を満載!!
米子市観光協会
 http://www.yonago-navi.jp/
 2019.10作成

水辺に沿って彫刻ウォッチング(.....で表示)

1 彫刻ロード

昭和63年から開催された「彫刻シンポジウム」において、市内外の作家たちが制作のプロセスを公開するという方法で創作されたモダンな彫刻作品が並びます。

2 総泉寺

米子城主中村家、池田家と縁があり、檀家に米子城下の武士も多かった米子城下第一の曹洞宗の古刹。現在の建物は天保13年に建て替えられたもの。



3 ダラズ・クリエイト・ボックス

旧地銀支店を改装し、中にコミュニティFM放送局などがあります。

4 城山大師と石仏めぐり

弘法大師像を起点に城山中腹を一周。200余体の石仏、88ヶ所の札所が設けられ、椿や桜など季節の花々が咲き誇る清閑な道は、大正14年、市民が浄財を集め、奉仕に汗を流して完成させたものです。

5 感應寺

米子城主中村一忠の菩提寺で、日本三感應寺(米子、静岡、和歌山)のひとつ。本堂には一忠と、殉死したふたりの忠臣の像(主従木像)が安置され、山内には墓所もあり、山門脇には明治末期に活躍した21代横綱若島の墓石も見られます。



米子城跡から古刹へ、米子創世の軌跡を訪ねて。

6 米子城跡(標高90m)

米子城は五重の小天守閣と四重の小天守閣を誇る山陰屈指の名城でしたが、今はその石垣をどめるだけ。城跡からは市街地が一望に、秀峰大山、弓ヶ浜から島根半島、中海。晴れた日には隠岐島を眺めることができます。



「米子の魅力を動画で！」

このQRコードから携帯電話やスマートフォンを使って、米子の下町あるきと、加茂川中海遊覧船就航の様子を動画でお楽しみ頂けます。ぜひご覧ください。

[加茂川中海遊覧船]

7 内膳丸跡

米子城築城を指揮した時の家老、横田内膳の名前に由来し、往時は二重櫓数棟の武器庫が並び、米子城の心臓部でもありました。

8 湊山公園と夕日の像

日本庭園や桜の園が、かつての海岸の名残である潮止めの松や清洞寺跡など、中海に面した緑豊かな市民の憩いの場。中海の彼方へ沈む夕日を見る絶好のポイントでもあり、唱歌「夕日」をモチーフとした像も設置されています。



9 諸国船問屋

江戸時代初期から判屋を務め、その後は荒尾氏の要請で米子港・加茂川現「旧加茂川」の船方の総支配を務めた家柄です。現在の家屋は明治30年代に建て替えられたもので、外観からも格調高い町屋の風情を見ることが出来ます。

10 回船問屋 後藤家住宅

後藤家は江戸時代に海運業を営み、藩の米や鉄を運ぶ特権を与えられた回船問屋。1700年代の初めに建築された母屋と、30年遅れて建てられた一番蔵、二番蔵が「重要文化財」。母屋の屋根は平瓦と丸瓦を交互にふいた、お寺と同じ「本瓦葺き」で、民家としては米子ではここだけ。



11 京橋から灘町橋、中海へ

「京橋はお城から京へ上る初めの橋で、欄干には「擬宝珠(ぎぼし)」が付いています。川沿いの蔵には裏門と川に降りる石段が。中海は「錦海(ぎんかい)」とも呼ばれその名は「錦の布を敷いたような海」だったこと由来しています。



12 寺町通り

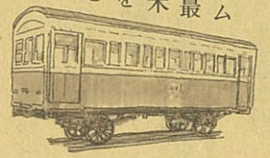
約四百メートルにわたって、九つのお寺が通りにずらりと並び、全国でも珍しい町並みです。

13 加茂川のかっぱ像

米子城の外堀であった加茂川で生まれ育ったかっぱの加茂坊。いつの間にか川の水が汚れて棲み難くなり、水のきれいな日野川上流に疎開していましたが、最近、住民の努力で少し水が澄んできたのでこちらに帰り、次男の「日野ボン」や母・兄・姉とともに賑やかに暮らしています。他にも仲間が増えました。

14 法勝寺電車

明治20年、英国バーミンガムで製造された、国内では最も古い木製二軸三等客車。米子と南部町法勝寺などを結ぶ法勝寺鉄道で利用され、05年「推薦産業遺産」に認定されました。



15 咲い地蔵

傍らには「念ずれば花ひらく」と記された石碑。朝日町で浮かれ過ぎて「御前様」となったおとくさんたちも、帰りにそとと手を合わせたります。



16 涼善寺

南北朝時代の武将、児島高德公については、隠岐島に遷される後醍醐天皇を救出しようと、岡山県院庄の桜の樹に「天勾踐を空しうすること莫れ時に范蠡無きにも非ず」と、という詩を記したことで知る人も多い。



17 白壁土蔵

(旧加茂川と桜並木、つつじ、地蔵)川に面した石段は、米子港から荷物を載せた船が行き交っていた昔をしのばせ、この下400m位の間に、桜の並木が続き、お地蔵さんが点在しています。



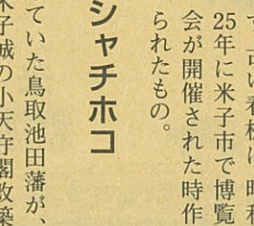
18 山陰歴史館

(旧米子市庁舎) 常設展示館無料。米子城の資料や昔の暮らしの道具など総数1000点。米子の歴史が一目です。(米子駅、皆生方面からのバスはほとんどこの前に停車します) 開館時間/午前9:30分~午後6時(入館費50分まで) 休館日/毎週火曜日(祝日の翌日) TEL/0859-227161



19 岡本一銭屋

(駄菓子屋) 昔から駄菓子や玩具を商い、子供のお小遣いの「一銭が屋号」となり、今も子供たちがたくさん集まっています。古い看板は、昭和25年に米子市で博覧会が開催された時作られたもの。



20 米子城のシャチホコ

(鹿島茶舗) 米子城下を治めていた鳥取池田藩が、1856年頃、米子城の小天守閣改築の修理費として鹿島家に本分家で七千両を拠出させました。その記念として受け取ったふたつのシャチホコのひとつがコレ。四百年前に作られたもので、高さは92cm。

